

平成28・29年度 アクティブ・ラーニング実践研究の 取組について

【実践地域 大分県中津市】



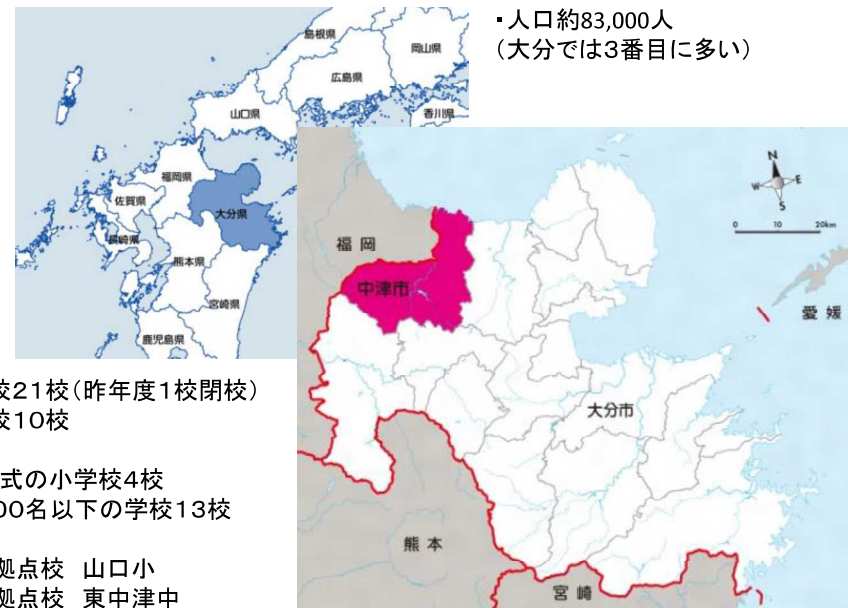
平成30年 5月9日・10日
アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット 2018

中津市教育委員会

大分県 中津市

・大分県の北西端に位置する。

・人口約83,000人
(大分では3番目に多い)

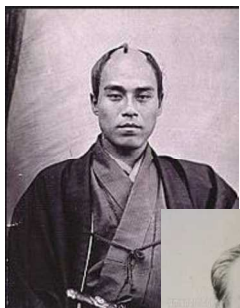


- ・小学校21校 (昨年度1校閉校)
- ・中学校10校

複式の小学校4校
100名以下の学校13校

実践拠点校 山口小
実践拠点校 東中津中

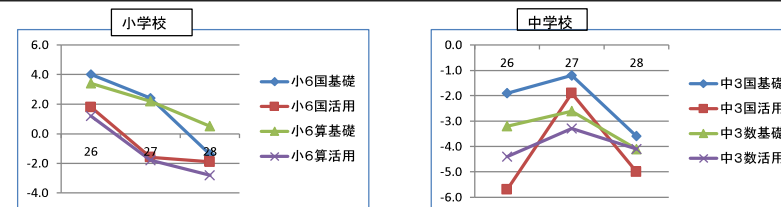
中津市に縁のある偉人



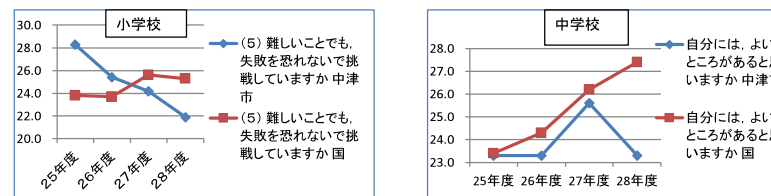
・独立自尊

・天は人の上に
人をつくらず

H28年度までの全国学力状況調査の状況



学力状況調査より



学習状況調査より

H28年度までの課題

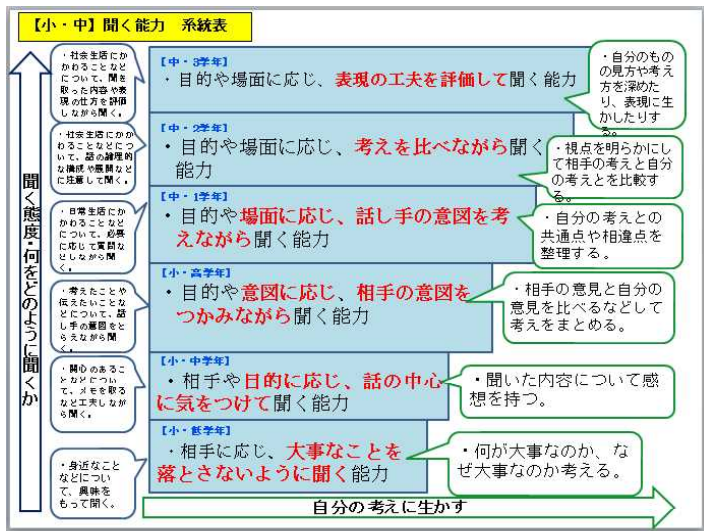
- ア、育てたい力を身に付けた学習者としての目指す姿の明示
- イ、教科等の本質に迫り、主体的な学び、協働的な学びを通して、真に深い学びが実現する課題解決型単元構想による授業の実施
- ウ、児童生徒が、学びの主体者であることや、日々の学習が生活や社会にどうつながっているか、さらにどうつながっていくかを自覚できるような指導、支援の在り方の工夫
- エ、知識・技能の定着や、思考力・判断力・表現力の状況と合わせて、学びに向かう力も含めて、具体的に評価するための評価方法(評価規準、ルーブリックの設定等)の充実
- オ、言語能力と各教科等で育成すべき資質・能力とを育むカリキュラムの構想とマネジメント
- カ、学校全体及び地域全体による組織的な授業改善の推進

～研究主題～

『学びに向かう力の育成～主体的・対話的で深い学びのある授業の創造』
～言語能力の育成との関連を通して～

～主体的・対話的で深い学びのある授業実現のために②～

言葉の力 系統表 作成・活用



～主体的・対話的で深い学びのある授業実現のために①～

算数・数学 言語能力関連表 作成・活用

学年	算数	数学	言語能力	算数	数学	言語能力	算数	数学	言語能力
低学年	算数の活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について共通の事項をもとに算数の活動を通して数学的な知識のよきにつなげる。								
中・高学年	算数の活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について共通の事項をもとに算数の活動を通して数学的な知識のよきにつなげる。								

～主体的・対話的で深い学びのある授業実現のために③～

資質能力表の作成

		資質・能力			
		社会生活に生きる力	学びの意欲	学びの心	目的や具体的な学びの姿
教科書	教科書の内容(指導内容・内容・事項)	教科書の内容(指導内容・内容・事項)	教科書の内容(指導内容・内容・事項)	教科書の内容(指導内容・内容・事項)	教科書の内容(指導内容・内容・事項)
特別活動	学級活動(1)学級や学校の生活づくり(2)学級や学校における生活課題の解決	主体的な学び(課題解決に向け、一人ひとりが考えをもつ、考えを表明する場が保証される)	体育大会の成功に向け、リーダーを中心に準備する。話し合う。	協定と協力してよりよい学級生活を送ること。学級の一人としての位置が果たされ、互いの良さに気づけたりする。	【思考力】 【判断力・表現力】 【読解力】 【読書力】 【表現力】 【読解力】 【読書力】
学習活動	【小・中学年】 学級活動(1)学級や学校の生活づくり(2)学級や学校における生活課題の解決 【小・高学年】 学級活動(1)学級や学校の生活づくり(2)学級や学校における生活課題の解決	主体的な学び(課題解決に向け、一人ひとりが考えをもつ、考えを表明する場が保証される)	【思考力】 【判断力・表現力】 【読解力】 【読書力】 【表現力】 【読解力】 【読書力】	【思考力】 【判断力・表現力】 【読解力】 【読書力】 【表現力】 【読解力】 【読書力】	【思考力】 【判断力・表現力】 【読解力】 【読書力】 【表現力】 【読解力】 【読書力】

市・共有フォルダ「education」を利用し、活用を呼びかける。

～主体的・対話的で深い学びのある授業実現のために④～

実践拠点校・山口小・東中津中の実践

東中津中

山口小



3回の自主公開研→
3回目はAL実践協議会と共催

中津市授業研究会共催
講師を招いての、評価規準についての研修会



東中津中

～主体的・対話的で深い学びのある授業実現のために⑤～

夏季・冬季・授業改善講座

○講義

「次期学習指導要領をふまえた総合的な学習の授業づくりと育成される資質能力」

講師 佐伯市立松浦小学校
校長 川上 修司 氏

○協議「探究的な学びのある総合的な学習の授業づくり」



総合的な学習の時間による資質能力を明らかにし、授業実践につなげる研修

牧野教授を招いて教科関連の単元プラン作成の研修

～主体的・対話的で深い学びのある授業実現のために⑥～

中津市「主体的・対話的で深い学び」推進協議会



～主体的・対話的で深い学びを広めるために①～

「中津学(まなぶ)通信」の作成・発信

nakatsu manabu tuusin

中津学通信

平成29年12月20日発行
中津市教育委員会 学校教育課
TEL:22-4941 FAX:22-1492

東中津中学校 河野秀男教諭 数学科の実践 ～大分県教委数学科巡回指導～

■ 単元 「題目」二等辺三角形になる条件

■ 単元の目標 △Aと△DABにおいて、AB上の点Pに補助線DPを引き、証明の対象となる三角形を洗い出すことにより、DA=DBとなることを証明することができる。

■ 評価標準 三角形の合同条件を用いて、2つの三角形が合同かどうかを答え、DA=DBであることを証明することができる。

授業のポイント
○問題から課題を引き出す。
○教師がフロンチャート役。
○おたがいは「説明する力」。

「ゆえに」「したがって」などの言葉
を正しく用い、根拠を明らかにして、筋立てて説明する力。

その後、「直角が等しければ、二等辺三角形であるといえるのか」と言
うために「それはまだ覚えていな
い」ということで子供達はずき、
証明の必要性に目を向けます。

まだ証明に慣れさせる段階なので、「フロンチャート」に
「根拠」「結論」などを明確にしながら、
根拠が明らかになる説明の流れを
しっかりと見ていきます。

「フローチャート」に
よって、全員で証明
を完成させていきま
した。

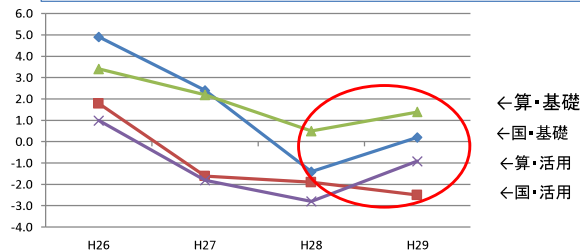
■単元終了(課題)になったこと
○説明することにはわらぬが定めてあり、授業の中になんか「説明するし合う」場面があった。
○子どもが興奮したとき、教師が繰り返して説明するのではなく、「今の興奮の中に根拠があった」
○〇さんとは違うところがあったなどの視点を与えたと、「近くの人と話し合って」などの指示を行う。
○フロンチャートの役割を果たしていた。このことで、子どもが明確な視点をもって話し合う場と時間が増えた。
○フロンチャートや付箋など、子供達が主体的・対話的に学びを進めることができるとも考えられていた。
○数学における課題解決への思考の流れ、「単元の流れ」「二等辺三角形の定理」、既習事項を振り返ったり、身に付けている学び方を活かした学習になっていた。
○校内資料研究会で、問題や課題のあり方など授業について協議することで、河野教諭の授業が、同校の数学の授業の授業に生かされ、3本とも、「主体的・対話的な学び」がある授業となっていた。

△DABはなぜ二等辺三角形になると言えるかという課題を位置づける際、問題からすぐに課題を位置づけるのではなく、「二つの角が等しいからといって本当に二等辺三角形と言えるのか」と問いかけ、子どもが迷う状況をつくってから、課題を位置づけていた。さらに全員が課題解決に向かうように「解決の見通し」を全員で確認してから、個人グループ学習を行うことで、全員が学習に参加し、学びに向かう姿が見られた授業であった。

成果と課題

～児童・生徒の学力状況①～

小6 国平均との差(全国学力・学習状況調査 4月実施)



小学校6年生

- 「国語・算数の基礎」、「算数の活用」において、H28年度から大きく向上。
- 「国語・算数の基礎」は全国平均を上回る。
- 「国語の活用」のみH28年度を下回る。
- 自分の考えや理由を書く設問での「無回答率」の値がH29は国を大きく下回る
H28: 市12.7%(国11.5%) (国+1.2P)
H29: 市13.4%(国19.4%) (国-6P)

～主体的・対話的で深い学びを広めるために②～

『主体的・対話的で深い学び』と授業・研究との連携表の作成

6/30 今津小学校 馬場教諭 研究授業 で見る
主体的・対話的で深い学び

- ◆「主体的な学び」
 - ・明確な目的意識をもつ。
 - ・本質的な問いの解決に向け、一人ひとりが考えをもつ。
 - ・考えを表明する場が保障される。
 - ・ゴールに向けて、学習の見通しをもったり、学習状況をふりかえったりする。
 - ・「言われなくても学習する」という意味ではない。
- ◆「対話的な学び」
 - ・考えを共有する場が保証される。
 - ・自己の考えと他者の考えを比べる。
 - ・自己の考えが更新される。
 - ・(ペア学習、グループ学習などの形態ではない。「会話する」ではない)
- ◆「深い学び」
 - ・知識が関連づけられ、構造化される。(新たな思考)
 - ・「なるほど」「そういうことか！納得！」「だったらこんなこともできるよ！」
 - ・(一つのことを考え続けるという意味ではない)

資質・能力の育成
・生きて働く知識・技能の習得
・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成
・学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性

「新しくはというものが学べて良かった。」
「比を使っておいしいカルピス牛乳をつくれそうだ。」
「根の意識を、実用している力。」
「算数で学習したことは、生活に生きているんだな。」

馬場先生の授業

カルピスを飲ませる。
人によって違う。

作り方。カルピス1の割合で水4の割合、これにでも糖類にも合わせるような説明活動。

目当て: おいしいカルピスの作り方を伝えよう

課題: おいしいカルピスにつくるにはどうすればいいか

廊下

カルピス4割(水4)
カルピス1割(水1)

ノート: まずは4割なので4割分入るようになります。カルピスは1割なので1割分です。水の量は4割分入ります。

グループ: ノートを4人でまわす。(くんが同じ。)

班: 班で要約を出し合い、みんなの意見。3班と同じで4と1に1分けています。

5: カルピス1は小さいカップ1杯分。水の4は小さいカップ4杯分。

まとめ: カルピスを正確にはるにはそれぞれ同じサイズにそろえて分けて考えないと1:4を比という。1たい4と読む。

練習問題: 実際に作る。K: コップに2.3cmずつ目盛り

振り返り: 2つのものを混ぜ合わせるとは、面積図を使うとわかりやすい。友達と発表。新しく比というものが学べて良かった。

今津小の研究

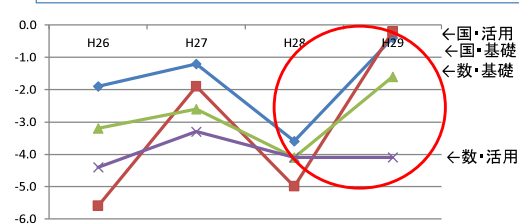
- 十分な教材分析をして、学習計画目当て、課題の設定
- 教材・教具の工夫
- ・考えをもたせる支援の工夫(ノート・教具・ワークシート)
- ・ペア学習・グループ学習
- 言語活動の充実をはかる
- 子どもをつなぐ授業 伝える相手を意識させる
- ノート、教具、ワークシートをもとに交流させる

今津小の目指す授業: 子ども
すすん学び、豊につながりあう子ども

成果と課題

～児童・生徒の学力状況②～

中3 国平均との差(全国学力・学習状況調査 4月実施)



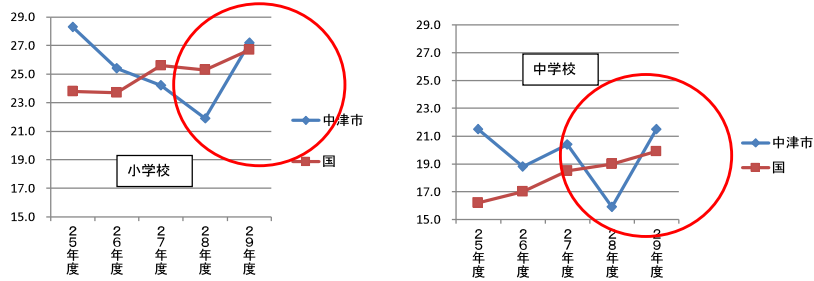
中学校3年生

- 「国語・数学の基礎」、「国語の活用」において、H28年度から大きく向上。
- 全ての項目で全国平均を下回るものの、国語の活用は全国平均に近づく
- 「数学の活用」のみH28年度から変化なし。
- 「活用問題」において無回答率の値が、国を上回っている項目が多い。

成果と課題 ～児童・生徒の学習状況①～

全国学力・学習状況調査 質問紙調査より

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

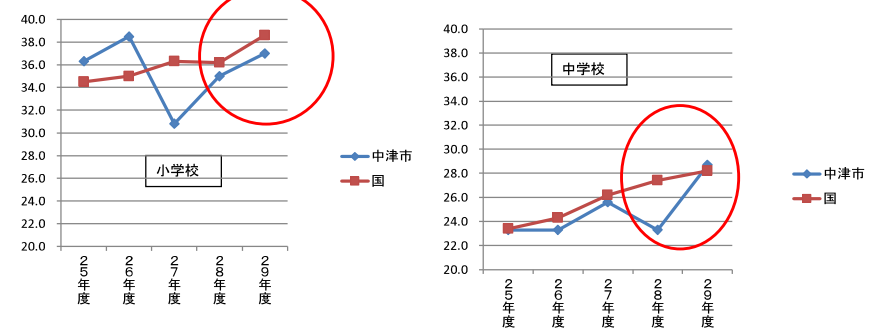


○小・中ともH28年度から向上し、全国平均も上回った。
○例年小学校より中学校の方が5P程度低い。

成果と課題 ～児童・生徒の学習状況②～

全国学力・学習状況調査 質問紙調査より

自分には、よいところがあると思いますか。

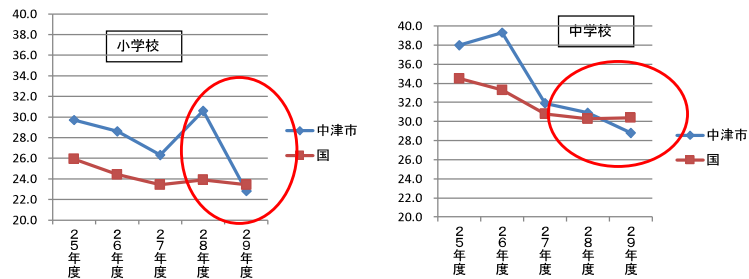


○小・中ともH28年度から向上している。中学校は全国平均も上回った。

成果と課題 ～児童・生徒の学習状況③～

全国学力・学習状況調査 質問紙調査より

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか

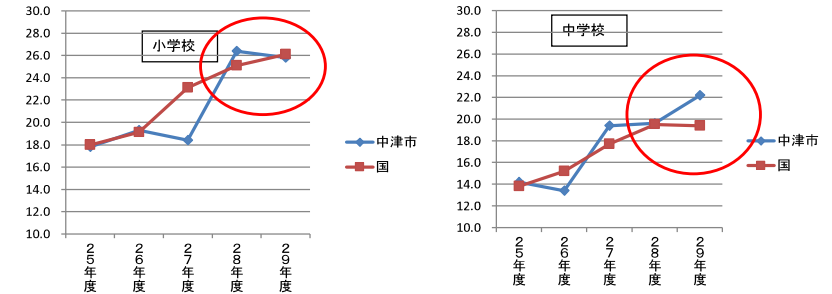


○小・中ともH28年度から向上して、全国平均も値は下回った。

成果と課題 ～児童・生徒の学習状況④～

全国学力・学習状況調査 質問紙調査より

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



H28年度から中学校は向上し、全国平均も大きく上回った。

～成果と課題～
学力・学習状況について(まとめ)

○H29年度の結果から

- ・小・中とも、基礎は大きく向上。
- ・「中学校の国語の活用」は大きく向上。
- ・活用力につながる意識調査の数字も国平均以上、もしくは国平均と同等に向上している。



H28からの山口小・東中津中を中心とした、総合的な学習と関連させたり、各教科で単元構想を大切にしたりした学習・指導方法の改善、資質・能力を育成する授業・評価の広まり。

成果と課題
～今後に向けて②～

○市・共有フォルダ「education」で、成果物などを活用を呼びかける。

→ 活用の促進、活用状況の把握、検証

○29年度末の市学力調査や30年度4月の全国学力状況調査の結果の数字をもとにした検証。

成果と課題
～今後に向けて①～

○H30年度以降も山口小、東中津中の研究成果、学力向上支援教員等の実践から「資質・能力」「評価規準」を、学習者の姿から明らかにする。

→公開研、各種会議・研修の中で広める。

○研究・実践の継続

- ・ルーブリック評価 パフォーマンス評価 事例集
 - ・教育課程編成モデル
 - ・新聞活用から育てる資質・能力一覧表
 - ・主体的・対話的・深い学びが実現する課題解決型単元構想による授業事例集
- 学力向上支援教員等、司書協議会、市授業研究会指定校との連携しながら、拡充していく。

ご静聴ありがとうございました。